

ヨコハマ市民まち普請事業

第一次提案書



- 注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。
 注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。
 注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	菊名・錦が丘にみんなの“ひろば”をつくる会
現在の主な活動 内容・活動実績	港北区菊名・錦が丘周辺は、坂が多く高齢化も進み「おでかけバス」などの先進的な移動支援の活動実績があり、そのメンバーが提案グループの中心となっている。 地元の錦が丘桜まつりや港北オープンガーデンなどでは、「お休み処」を提供するなど積極的に地域に関わってきた。 今回の提案に向け多世代交流の場を作るために便利な場所に空き家を確保した。 この空き家で行う活動について、地域の活動の担い手となるメンバーが集まって、意見を出し合うワークショップを行った。
提案場所	港北区錦が丘
提案名 (25字以内)	カベを取り払ってみんなが自由になる「ひろば」づくり
提案する施設 (どのような施設の提案ですか)	空き家を改修（自費工事などで）して拠点を整備する。拠点がみんなの場所となるようにブロック塀を取り払い見通しが良く自由な出入りを確保する。 1) 歩行困難者や車椅子を使う人、小さな子どもが出入りしやすいように、通路の拡幅、階段の段差縮小、車椅子のための通路の新設を行う。 2) 多世代の交流のための花壇と菜園を作る。 3) 施設の活動を知らせる看板、掲示板をお出かけバスの沿道に設ける。 整備費用の概算額：約 500 万円
活用イメージ (提案する施設で どのようなことを 行いますか)	1) 高齢者、子育て世代のためのほっとできる居場所をつくる。 2) 多世代の交流、住民相互の交流、介護関係者の交流、子どもどうしの交流といった様々な交流が生まれる場をつくる。 3) 子どものための豊かな環境作りの場（子どもの居場所、子ども食堂、自習室、学習支援活動）をつくる。 4) 施設への出入りが自由になり、施設内と通行人との交流が深まる。 5) 施設の看板・掲示板を通じて、活動が広く知られるようになり、まちの活性化につながる。
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	提案場所の周辺の地域は坂が多く、ケアプラザなどの公共施設への交通が不便である。そのため、住民の身近な場所にある地域活動の拠点が求められてきた。「菊名おでかけバス」や「おやこの広場びーのびーの」といった市民活動がベースとしてあり、拠点を運営する地域の担い手の活動は活発である。菊名駅周辺の住宅地では、戸建て住宅に住む高齢者も、小規模の集合住宅に住む独身者、子育て世代も、それぞれが憩う場所、集う場所を求めている。しかし、周辺の地域にはこのような場所が少なく、それぞれの居場所づくりが求められている。

<p>目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）</p>	<p>今までも住民による多くのまちづくり活動があったが、活動に利用できる拠点が整備されることにより、地域の課題解決（居場所づくり、多世代交流など）が促進される。このような拠点は継続的に運営されることが必要である。そのために、有志から提供された拠点を地域が支える仕組みを生み出し、新しい支え合いのモデルを作りたい。</p>
<p>整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）</p>	<p>1) 地域の市民団体、NPOと利用計画を協議するため、「菊名・錦が丘にみんなの“ひろば”をつくる会」として活動を始めている。これを通じて拠点整備の呼びかけをする。 2) 地域の町内会（錦が丘町内会）から、施工に興味がある人材の協力関係が得られそう。 3) メンバーにDIYアドバイザーがいて、企画、施工及び協働作業時の指導ができる。 4) 計画の趣旨に賛同した工務店の社長が施工を手伝ってくれる。 5) 「菊名お出かけバス」を運行する「コミバス市民の会」により、バスが運行する広範囲に広報宣伝ができる。 6) 「菊名・錦が丘にみんなの“ひろば”をつくる会」がバザーを行い、施設の周知と資金調達、家具、電化製品、食器の提供を受けることができた。この活動を継続して、引き続き協力を得ていく。</p>
<p>運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）</p>	<p>提案グループは、「菊名お出かけバス」の運行と連動させて、「バス待合室」のようなカフェ、食堂として開くことを計画している。また、地域のまちづくり活動に協力する施設所有者と施設所有者が設立した法人から継続的な資金を得ていく。 地域のフリーペーパー等を通じて、バザー開催や、この施設ができたことを広報する。 この施設がある周辺地区には、「ギャラリー&スペース弥平」のように、地域の活動に開放されている施設がある。このような拠点と連携しながら、地域に魅力的な企画（例えば「ご近所文化祭」など）を、地域の活動団体と協力して進めていく。</p>
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください。</p>	<p>この提案は、地域が抱える課題解決には、世代を超えた協力や、地域をまたいだ連携が求められているとの認識に基づいている。ここでの活動が、今後、20年を目処に継続することを考えるとき、施設がその期間、地域のまちづくりのために提供されることが必要である。それを実現するための試みを拠点の持ち主と、活動する市民がともに考え提案している。空き家が増えてくる今後、同様の拠点が次々と現れてくることを私たちは期待している。</p>

注4) 「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
整備場所の土地・建物の所有者	提案への同意を得ている

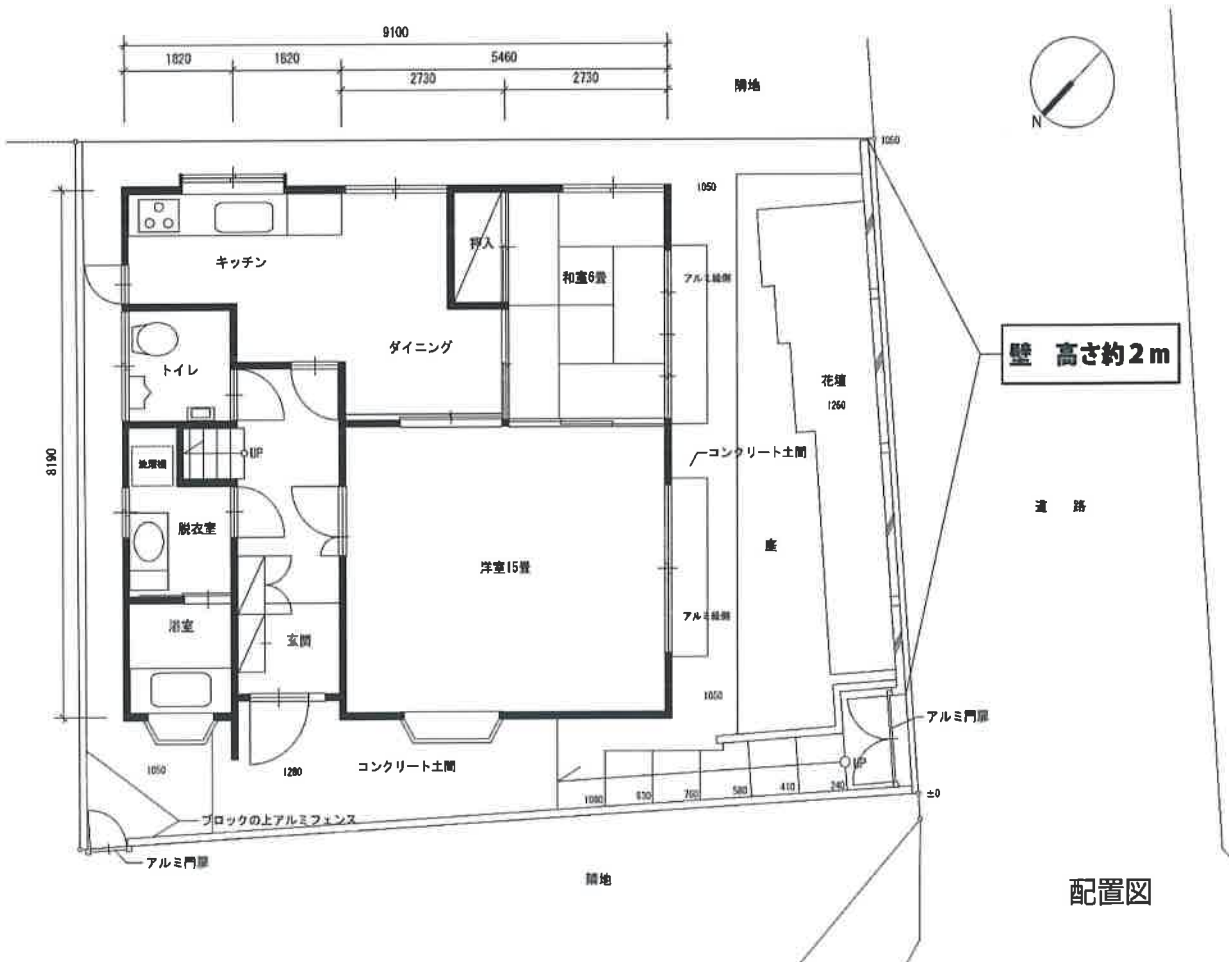
注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報が含まれていません。

添付資料

○位置図



配置図

○現況写真



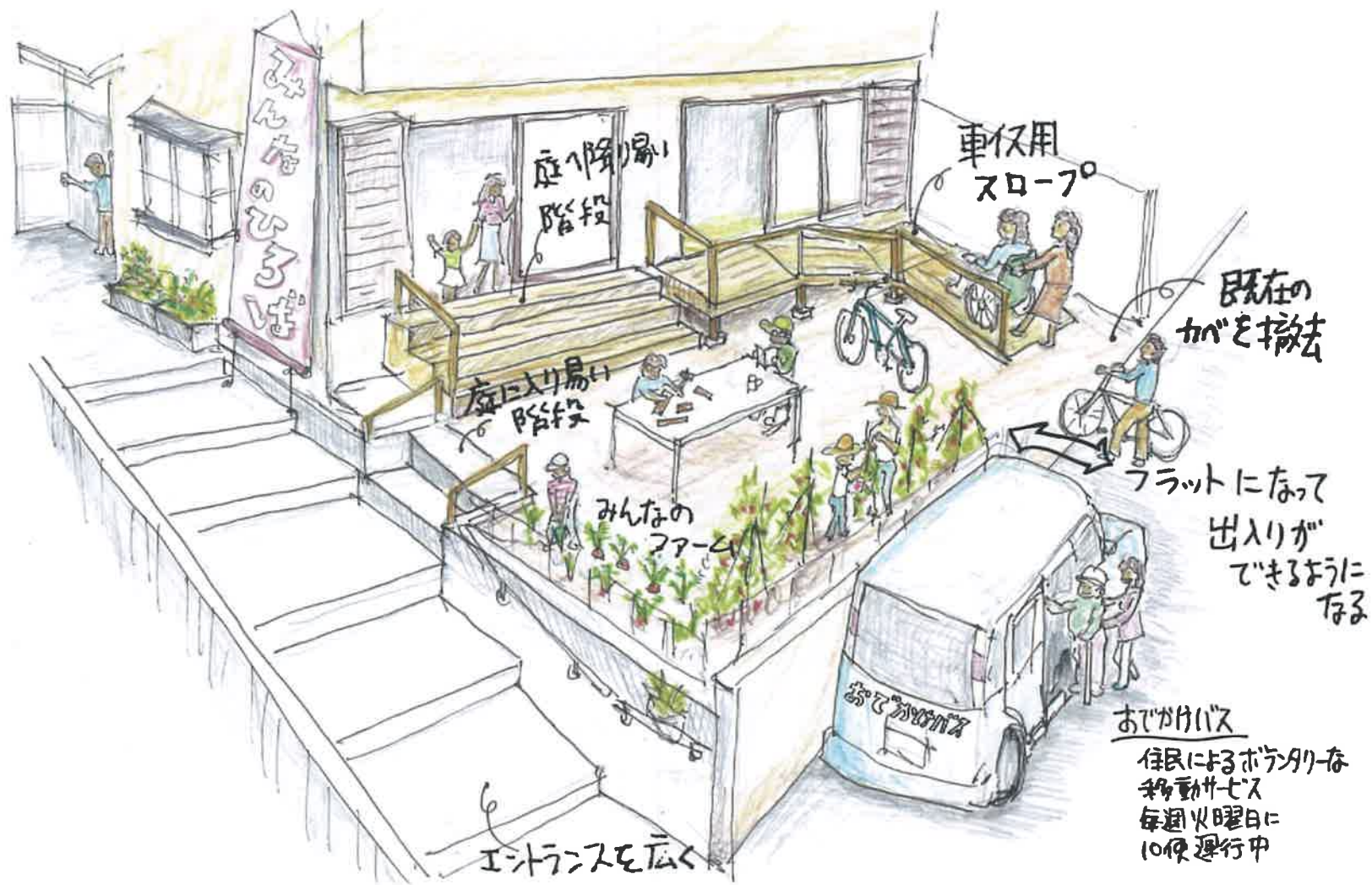
道路と建物の間にカベがある。→ 撤去することにより出入りが容易になる。



庭木があって、菜園などに適さない。

門から玄関からへの通路が狭く、段差がある。

○活用イメージ図



○その他の資料

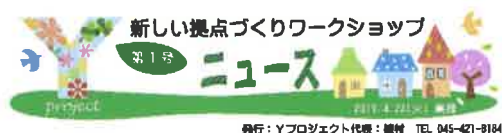
・4月23日に開催されたワークショップ

27名の参加者から、「一緒に食べる場所をつくる」、「高齢者の居場所」、「男性の居場所」「学びの場」「泊まれる場所」「相談できる場所」など、たくさんの提案が出されました。これらの成果は、「新しい拠点づくりワークショップニュース」としてまとめられました。



利用計画提案の発表

まとめのニュース（見出し部分）



・6月2日に開催されたバザー

ワークショップで出された提案をもとに、早速バザーを開催しました。バザーのお知らせは、お出かけバスや、地域のフリーペーパーなどを通じて行いました。沢山の品物のバザー提供とボランティアの参加を得ることができました。赤ちゃんを抱いたお父さんお母さんから、お年寄りまで、大勢にお客さんに施設をご覧いただき、買い物を楽しんでいただきました。参加者とスタッフの間で、この施設の今後について話し合う風景も見られました。



当日のにぎわい

バザーの売り上げ約10万円は今後の活動に使うことになりました。

ポスター・チラシ

